

経済研究所 年報

第 26 号
April 2013

研究報告

日本のアジア太平洋経済戦略：

TPP への対応

..... 浦田秀次郎

欧州債務問題の現状と

グローバル経済への影響

..... 松宮 基夫

創設期の厚生経済学と福祉国家

マーシャルにおける

経済進歩と福祉を中心に

..... 西 沢 保

国際決済銀行の過去と現在

..... 矢後 和彦

非伝統的金融政策の効果と限界：

デフレ脱却と金融政策

..... 内田 真人

成 城 大 学

經 濟 研 究 所
年 報

第 26 号

成 城 大 学

THE INSTITUTE FOR ECONOMIC STUDIES
OF
SELJO UNIVERSITY
2013

巻 頭 の 辞

昨年末に生じた政権交代とそれに伴う政策転換は、経済政策がいかに経済に影響を与えるかについて、貴重な社会的実験の機会をあたえているようである。中央銀行が政府の提示する方針に協調するように、2%の物価上昇率を目標とした積極的金融政策に姿勢を転換し、それを補完するように公共事業の増加を伴った財政政策の発動、そして成長力増強のための規制緩和や税制改革などを含めた構造改革への政策方針の提示は、ひとつひとつに物価上昇の期待を形成させ、結果として資産市場においていち早く価格の上昇が見られ始めたからである。

日本経済の課題、つまり経済をどのように回復させ成長軌道にのせるかは、すでに議論が尽くされ、その処方箋は経済学者の間ではさほど意見の乖離が見られないともいわれている。人口減少社会の中で長期的に財政健全化と抵触せずに経済成長（ないしは一人あたり所得の増加）を実現するには、数多くの制約をクリアして、実行可能な（きわめて）狭い道のりを、尾根道を歩むがごとく左右どちらにも踏み外すことなく踏破していかなければならない。それは産業構造を変え、社会のあり方を変化させるような実物投資が行われ、名実ともに経済成長を実現していくことでもある。その道のりが長く注意を要することに意見の相違はさほどないのである。

これまで辿ってきたデフレ経済は、結局のところ実物投資には抑制的に働き、人口減少社会に必要な生産性上昇を伴う技術革新に結びつきにくかった。投資不足を補うように政府支出が継続的に行われ、資金不足を国債で調達し、その結果国債残高が膨張していった。その規模の拡大は持続可能性を訝しがるほどのものである。

他方のインフレ経済は、物価上昇の進行とともに通貨の信認を国内外に失わせる過程である。貨幣ストック全体は貨幣当局（中央銀行）によって完全にコントロールできるものでなく、内在的に信用膨張を生み出し、経済内部で貨幣ストックを膨張させうるものである。そのスピードは通貨当局の認知のすきまを衝いて、すみやかに資産価格を上昇させ、しいてはバブルを発生させうる。

資本のすみやかな国際的移動がみられる世界では、なおさら膨張のスピードは速く、通貨当局のコントロールを超えるものになりうる。バブルを伴った資産価格上昇の認識が遅れ、遅れた後に急速な引き締めが行われると、経済はデフレ領域に不可逆的に入ってしまう。

現在の日本経済はデフレとインフレの崖が左右に展開する、尾根道で象徴される「ナイフエッジ」の世界に否応なしに入り込んでいるのかもしれない。そのエッジの上をいやでも踏み歩くしか選択肢が残されていないことも確かなようである。踏み外さないように細心の注意と雑音に惑わされない信念をもって踏破するしかないと思われる。

さて2012年度の経済研究所の研究報告会であるが、直近で進行している欧州債務問題や自由貿易協定の動向をふまえて、国際通貨体制と自由貿易体制に関連したお話を過去と現在の視点からしていただき、現行の状況を理解するための材料を提供してもらうのはどうかということで、方向性がまとまることになった。不躰ながらこのようなテーマでお願いできないかと講師の方々に打診をいたし、幸いにも快くお引き受けいただいた。前半の第73回研究報告会では、第1部で松宮基夫氏に「欧州債務問題の現状とグローバル経済への影響」という題目で、第2部で浦田秀次郎氏に「日本のアジア太平洋経済戦略：TPPへの対応」という題目で講演をしていただき、それぞれ欧州債務危機の影響とTPPの意義について貴重なお話を拝聴する機会をえた。後半の第74回では過去にふりかえり新しきを知るという形で、第1部では矢後和彦氏に「国際決済銀行の歴史と現在」という題目で、戦間期から戦後にかけて国際決済銀行の視点から国際通貨体制の変遷をお話いただき、第2部では西沢保氏に第1次世界大戦以前のイギリスの黄金期における資本主義と自由主義の変遷をA. マーシャルの視点から、とくに経済進歩と福祉を中心にしてご講演いただいた。両研究報告会ともにご専門の立場から誠に興味深いお話をしていただいた。改めて講演者の先生方にお礼を申し上げる次第である。

2013年度の事業については、前年度からの研究プロジェクトの継続ということでテーマ上の変更はないが、これまでの活動を集大成する意気込みでプロジェクトの最終年度を迎えたいと考えている。このためには研究所所員の方々の一層の協力はいうまでもない。さらに成城大学経済研究所にご支援をいただい

てきた関係者の皆様には，これまでのご協力を感謝申し上げるとともに，今後とも変わらぬご協力を賜れば幸いである。

2013年4月

成城大学経済研究所長

明 石 茂 生

目 次

巻頭の辞	明石茂生.....	1
研究報告		
日本のアジア太平洋経済戦略：TPP への対応	浦田秀次郎.....	7
欧州債務問題の現状とグローバル経済への影響	松宮基夫.....	41
創設期の厚生経済学と福祉国家	西沢保.....	65
—マーシャルにおける経済進歩と福祉を中心に—		
国際決済銀行の過去と現在	矢後和彦.....	97
非伝統的金融政策の効果と限界： デフレ脱却と金融政策	内田真人.....	129
研究所だより		161
前号目次・編集後記		167
「経済研究所年報」刊行一覧		168

研究所だより

◆会 議

運営委員会

平成24年度

第1回 平成24年4月26日(木)

第2回 平成24年10月25日(木)

第3回 平成25年2月21日(木)

所員会議

平成24年度

第1回 平成24年4月24日(火)

第2回 平成24年10月23日(火)

第3回 平成25年2月20日(水)

第4回 平成25年2月22日(金)

企画委員会

平成24年度

第1回 平成24年4月12日(木)

第2回 平成24年10月9日(火)

第3回 平成25年3月4日(月)

◆研究報告会

第73回

日 時 平成24年5月26日(土)

<第1部>

講演者 松宮基夫氏(三菱東京UFJ銀行企画部経済調査室長)

演 題 「欧州債務問題の現状とグローバル経済への影響」(本号に掲載)

<第2部>

講演者 浦田秀次郎氏(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授)

演 題 「日本のアジア太平洋経済戦略：TPPへの対応」(本号に掲載)

第74回

日 時 平成24年10月13日(土)

<第1部>

講演者 矢後和彦氏(早稲田大学商学学術院教授)

演 題 「国際決済銀行の歴史と現在」
(本号に『国際決済銀行の過去と現在』として掲載)

<第2部>

講演者 西沢保氏(一橋大学経済研究所教授)

演 題 「イギリス資本主義と自由主義の変遷—マーシャルにおける市場と政府を中心に—」
(本号に『創設期の厚生経済学と福祉国家—マーシャルにおける経済進歩と福祉を中心に—』として掲載)

日本金融学会中央銀行研究部会

日 時 平成24年9月7日(金)

<第1部>

講演者 藤木裕氏(日本銀行金融研究所参事役)

演 題 “Policy Measures to Alleviate Foreign Currency

Liquidity Shortages under
Aggregate Risk with
Moral Hazard“

<第2部>

講演者 井上哲也氏 (野村総合研
究所主席研究員)

演 題 「先進諸国の中央銀行の
政策課題—金融政策と金
融システム安定策のクロ
スオーバー」

◆ミニ・シンポジウム

第1回

日 時 平成24年5月22日 (火)
発表者 大森弘喜氏 (成城大学経
済学部教授)

題 目 「19世紀パリの〈水〉改
革—公的介入・私的所有
権・経済的合理性—」

第2回

日 時 平成24年6月27日 (水)
発表者 青山和正氏 (東京富士大
学経営学部教授)

題 目 「ベトナムと中小企業～
ベトナムの中小企業政策
の現状と課題～」

第3回

日 時 平成24年7月3日 (火)
発表者 立川潔氏 (成城大学経済
学部教授)

題 目 「金融利害の成長と文明
社会の危機—エドモンド
・バークのフランス革命
批判についての一研
究—」

第4回

日 時 平成24年10月9日 (火)
発表者 林幸司氏 (成城大学経済
学部准教授)

題 目 「上海における高等商業
教育の展開—銀行業との
関連から」

第5回

日 時 平成24年11月13日 (火)
発表者 柏原千英氏 (アジア経済
研究所)

題 目 「フィリピンにおける企
業金融と資本市場振興の
現状」

第6回

日 時 平成24年12月4日 (火)
発表者 内田真人氏 (成城大学社
会イノベーション学部教
授)

題 目 「デフレ脱却と金融政
策：非伝統的金融政策の
効果と限界」

第7回

日 時 平成24年12月18日 (火)
発表者 角田俊男氏 (成城大学経
済研究所客員所員)

題 目 「イギリス東インド会社
の改革と帝国統治
1778—95年—国家理性と
共感—」

第8回

日 時 平成25年2月27日 (水)
発表者 峯岸信哉氏 (成城大学経

題 目 「金融排除問題へのイギ
リスの取組み：リレーシ
ョンシップへの期待」
発表者 長谷川清氏（松蔭大学観
光文化学部准教授）
題 目 「リレーションシップバ
ンキングの成果と課題」

経営学部経済地域研究所
客員研究員）

題 目 「対メキシコ直接投資と
日系企業－ハリスコ州の
事例とその課題－」

◆刊行物

長期プロジェクト報告として以下の
書物を刊行した。

日墨学術交流

日 時 平成24年11月20日（火）
<第1部>
発表者 ヘスス アロージョ ア
レハンドレ氏
（グアダラハラ大学経済
経営学部経済社会研究部
長）
題 目 「メキシコの地域経済開
発－2000年～2010年－」

中田 真佐男（所員）著
消費者による小額決済手段選択
の現状：アンケート調査を用い
た分析
（経済研究所研究報告 No. 59）

<第2部>
発表者 サルバドール カリージ
ョ レガラード氏
（グアダラハラ大学経済
経営学部経済地域研究所
所長）
発表者 アントニオ マッキント
ッシュ ラミーレス氏
（グアダラハラ大学経済
経営学部 高等教育のク
オリティ・イノベーション
研究所教授）

駒形 哲哉著
中国の社会主義市場経済と中小
企業金融
（経済研究所研究報告 No. 60）

発表者 岡部 拓氏
（グアダラハラ大学経済
経営学部経済地域研究所
教授）

青山 和正著
ベトナムの中小企業政策に関す
る研究－ベトナムの中小企業振
興施策の現状と課題－
（経済研究所研究報告 No. 61）

発表者 柿原 智弘氏
（グアダラハラ大学経済

角田 俊男著
越えがたい懸隔と永久の分離－
バークと東インド会社の帝国統
治1778－95年－
（経済研究所研究報告 No. 62）

「Regional development in Mexico –
socio-economic regional development
and foreign direct investment–」
（経済研究所研究報告 No. 63）

- J. Jesús Arroyo Alejandre
(Researcher of Department of Regional Studies – INESER
Chief and professor of Division of Economy and Society
University Center of Economic and Administrative Sciences
University of Guadalajara)
- Regional Studies – INESER
University Center of Economic and Administrative Sciences
University of Guadalajara)
- David Rodríguez Álvarez
(Asistant Researcher
University Center of Economic and Administrative Sciences
University of Guadalajara)
- Salvador Carrillo Regalado
(Researcher of Department of Regional Studies – INESER
Chief and professor of Department of Regional Studies – INESER
University Center of Economic and Administrative Sciences
University of Guadalajara)
- Taku Okabe
(Researcher of Department of Regional Studies – INESER
Professor of Department of Regional Studies – INESER
University Center of Economic and Administrative Sciences
University of Guadalajara)
- Tomohiro Kakihara
(Researcher of The Institute for Economic Studies Seijo University
Visiting researcher of Department of

〔組 織〕

(平成25年4月1日現在)

所 主	長 事	明 大	石 津	茂	生 武	經 済 学 部 教 授	經 済 学 部 教 授
運 営 委 員		明 大	石 津	茂	生 武	所 主	長 事
		大 杉	本 部	義 順	行 一	經 済 学 部 長	文 芸 学 部 長
		戸 今	野 川	裕 良	一 之 治	法 学 部 長	社 会 イ ノ ベ ー シ ョ ン 学 部 長
		古 佐	藤 本	文	夫 孜	所 員	所 員
		村					
所 員		相 明	原 石	茂	章 生	經 済 学 部 教 授	經 済 学 部 教 授
(50音順)		浅 井	井 知	良 寛	夫 博	經 済 学 部 教 授	經 済 学 部 教 授
		伊 岩	地 崎	寛 尚	人 之 一	社 会 イ ノ ベ ー シ ョ ン 学 部 教 授	經 済 学 部 教 授
		上 上	杉 田	富 晋	一 人	文 芸 学 部 教 授	經 済 学 部 准 教 授
		内 大	田 限	真	宏 武	經 済 学 部 准 教 授	社 会 イ ノ ベ ー シ ョ ン 学 部 教 授
		大 大	津 森	弘	喜 裕	社 会 イ ノ ベ ー シ ョ ン 学 部 教 授	經 済 学 部 教 授
		小 小	平 路	雅 文	博 夫	經 済 学 部 教 授	經 済 学 部 教 授
		小 佐	宮 藤	文 匡	宏 雄	法 学 部 教 授	法 学 部 教 授
		庄 新	山 本	一 義	行 潔	經 済 学 部 准 教 授	經 済 学 部 教 授
		杉 立	川 原	英 公	敦 登	經 済 学 部 教 授	經 済 学 部 教 授
		塚 手	塚 田	真 佐	誠 男	社 会 イ ノ ベ ー シ ョ ン 学 部 教 授	經 済 学 部 教 授
		塘 中	井 清	幸 伸	人 司	經 済 学 部 教 授	經 済 学 部 教 授
		花 林	井 田	幸 伸	一 大	經 済 学 部 准 教 授	文 芸 学 部 教 授
		林 平	井 野	康	創 寛	社 会 イ ノ ベ ー シ ョ ン 学 部 教 授	經 済 学 部 准 教 授
		平 福	野 光		寛 子	經 済 学 部 准 教 授	經 済 学 部 教 授
		牧 村	野 田	圭 裕	志	文 芸 学 部 教 授	社 会 イ ノ ベ ー シ ョ ン 学 部 教 授

	村 本	孜	社会イノベーション学部教授
	森 川	俊 孝	法 学 部 教 授
	山 重	芳 子	経 済 学 部 教 授
客 員 所 員	吉 川	卓 也	中村学園大学流通科学部准教授
(50音順)	角 田	俊 男	武蔵大学人文学部教授
	都 留	信 行	産業能率大学経営学部准教授
	花 枝	英 樹	中央大学総合政策学部教授
	原 田	泰	早稲田大学政治経済学部教授
研 究 員	柿 原	智 弘	本学大学院経済学研究科
(50音順)			博士課程後期単位取得満期退学
	小 久 保	雄 介	本学大学院経済学
			研究科博士課程後期修了
	福 島	章 雄	本学大学院経済学研究科
			博士課程後期単位取得満期退学
	松 尾	茉 子	本学大学院経済学研究科
			博士課程後期単位取得満期退学
	峯 岸	信 哉	本学大学院経済学研究科
			博士課程後期単位取得満期退学
事 務	西 畑	利 恵	大学事務局総務課
	松 尾	茉 子	大学事務局総務課
	峯 岸	信 哉	大学事務局総務課

前 号 目 次

研究報告

なぜ、日本銀行の金融政策では

デフレから脱却できないのか	岩 田 規久男.....	7
国債累積と金融システム・中央銀行	斉 藤 美 彦.....	43
欧州通貨統合史の神話と実相		
—スネイクから EMS へ—	権 上 康 男.....	71
準備（基軸）通貨の来し方・行く末	倉 都 康 行.....	109
ネット公売の収入最大化	小 平 裕.....	123

編集後記

成城大学経済研究所年報第26号が刊行のはこびとなった。当研究所では昨年度2回の講演会のほか、日墨学術研究交流特別ミニ・シンポジウムを含む9回のミニ・シンポジウムを開催した。5月の講演会では、三菱東京UFJ銀行の松宮基夫氏が「欧州債務問題の現状とグローバル経済への影響」と題して講演され、欧州の債務問題と金融問題の進行による欧州諸国の経済悪化・欧州銀行の経営基盤弱体化の深刻さを詳細なデータにより分析・報告された。さらに、欧州銀行の与信圧縮によるアジア経済および日本経済への影響や邦銀にとってのリスク管理の重要性の増大についてもご指摘された。早稲田大学の浦田秀次郎先生は「日本のアジア太平洋経済戦略：TPPへの対応」と題して、閉塞感漂う日本経済を取り巻く急速な外的環境の変化を指摘されるとともに、TPPへの適切な対応は停滞する日本経済を復活させる成長戦略を考える上で非常に重要であることを強調された。いずれの講演も時宜を得た内容であり、活発な質疑応答が交わされた。

10月の講演会では、早稲田大学の矢後和彦先生が「国際決済銀行の過去と現在」と題してご講演された。組織史および経済学説史・経済思想史の視点から国際決済銀行(Bank for International Settlements, BIS)の成り立ち、変遷、果たした役割について、興味深いエピソードを交えてまとめられ、近年重要な課題の一つとして再認識されている銀行規制・監督についてのBISに期待される役割についてお話いただいた。また、一橋大学の西沢保先生は「イギリス資本主義と自由主義の変遷—マーシャルにおける市場と政府を中心に—」についてご講演された。マーシャル(Alfred Marshall, 1842-1924)の経済思想は現代経済社会の抱える問題への対応策を考える上で多くの示唆を与えてくれるものであることが指摘された。古典回帰の重要性が示された講演であった。講演後の質疑応答では、両先生と参加者との間で有意義な意見交換がなされた。本号はこうした活動の記録である。お忙しい中、ご協力いただいた学内外の諸先生方に厚くお礼を申し上げたい。

本年度は、昨年度から引き続き、研究第1部のプロジェクト「市場と統治—経済システムの長期的変動に関する歴史分析—」と研究第2部のプロジェクト「環太平洋における中小企業金融ならびに政府支援」という2つのプロジェクトを進める。また、高垣文庫利用の利便性向上にも努める予定である。それぞれのプロジェクトで優れた研究成果を挙げ、研究所の活動をより活性化させていくため、所員をはじめ内外の関係者の方々の一層のご協力をお願いしたい。

(大津記)

「経済研究所年報」刊行一覧

号数	執筆者	タイトル	発行年月
1	堀家文吉郎 中村 英雄 村本 孜 高垣文庫貴重書目録一追加 No. 1—	ソーントンの周辺 ジョン・ローの「墓碑銘」といわれるものについて 高垣経済学の一端	1988. 3
2	堀家文吉郎 麻島 昭一 片木 進 浅井 良夫	貨幣数量説とデビット・ヒューム 日本の金融制度再編——分業主義のゆくえ—— 決済ネットワーク発展の動向とリスク 占領期の金融制度改革と独占禁止政策	1989. 3
3	津田 内匠 長谷川輝夫 井田 進也 宮崎 洋	フランス革命と産業主義 18世紀フランスにおける民衆と活字本 憲法か革命か——明治前期日本人の見たフランス革命—— 18世紀のフランスにおける旅について	1990. 4
4	島村 高嘉 清水 啓典 金井 雄一 伊東 政吉 座 談 会	中央銀行の政策思想 情報化社会と日本の金融制度 イギリスにおける金融政策の形成と展開 アメリカにおける金融制度改革 ——金融政策との関連を中心として—— 高垣寅次郎博士を偲ぶ	1991. 4
5	岩武 照彦 松田 博 仁保 義男 シンポジウム インタビュー	『近代中国通貨統一史——十五年戦争における通貨闘争』 について 京都大学経済学部所蔵貴重書——その整理の一こま—— 防衛支出の最適水準についての一考察（セミナー報告） 金融制度改革 （原司郎・楠本博・高木仁・西條正弘・村本孜） 『世界各国の金融制度』の思い出（大月 高）	1992. 4
6	江口 英一 伊藤 正直 大田 弘子 両角 和夫 釜江 廣志	金融政策の中立性と中央銀行の独立性 ——中央銀行の役割と在り方—— フロート制移行期のわが国為替政策をめぐって 保険制度の改革について ——保険審議会答申をめぐって—— 現代農業金融問題と発生の背景 日本の国債市場と金利の期間構造	1993. 4

号数	執筆者	タイトル	発行年月
6		長期プロジェクト研究報告 世界貿易の進展と構造変化：中間報告 (明石茂生) わが国金融・資本市場の制度改革：中間報告 (花枝英樹) 協同組織金融機関の制度改革の方向 ——東京都の地域信用組合の規模の経済性—— (村本 孜)	1993. 4
		ミニ・シンポジウム TSL の金融市場への影響に関する理論分析 (北川 浩) 政策金融と中小企業の設備投資 (三井 清) 情報の非対称性と資本市場の理論 (展望) (久保俊郎)	
		高垣文庫貴重書目録 —— 追加 No. 2 ——	
7	藪下 史郎 橋本 一夫 石野 典 立脇 和夫 原田 泰	日本の銀行制度の安全性：歴史的展望 『信用金庫40年史』をめぐって ——協同組織金融機関の法制化にみる社会政策的側面—— 金融システムの安定性 ——1980年代後半以降の日本の金融経済との関連で—— 明治政府と英国東洋銀行 ——付「国立銀行条例」をめぐる疑問点—— バブルと金融政策 ——マネーサプライは外生である——	1994. 4
		シンポジウム 保険の制度改革 (花輪俊哉・前川 寛・刀禰俊雄・村本 孜)	
	書 評	峰本暁子著『国際金融システムの変革 1797～1988』 近代文芸社 1993年 (立脇和夫)	
8	花輪 俊哉 高木 仁 福光 寛 刈屋 武昭 村本 孜 小平 裕	銀行の将来 アメリカ銀行業は衰退産業か？ ナローバンク論とコアバンク論 オプション理論の考え方と応用可能性 金融デリバティブと地域金融機関 わが国の公的年金制度の動学的応用一般均衡分析	1995. 4
		ミニ・シンポジウム 金融派生商品の現状 (北島英夫) デリバティブの位相 (阿部重夫) 最近のデリバティブの動向について (中島敬雄) 金融デリバティブについて——金利スワップの プライシング・ヘッジを中心に (高橋豊治)	
		金融学会1994年春季大会記事	
9	黒川 和美	行政改革のシナリオと地方分権	1996. 4

号数	執筆者	タイトル	発行年月
9	伊藤 修	メインバンク制および日本型金融システムの発展と展望	1996. 4
	森田 哲彌	外貨換算と原価主義会計	
	米澤 康博	派生取引の機能と現物市場へ与える効果	
	小谷 融	外貨建取引等会計処理基準の改訂について	
	高橋 一	金利の期間構造決定モデル (II)	
9	石川 欽也	『金融仲介機能の新たな展開への対応』(1995年5月)について ——デリバティブ取引への対応——	
	浅井 良夫	追悼の辞 中村先生の思い出	
10	大塚 宗春	金融機関のトレーディング勘定への時価評価の導入について	1997. 4
	大西 又裕	企業年金会計の検討課題と方向性について	
	靄見 誠良	アジアの金融制度改革—マレーシアとインド—	
	那須 正彦	実務家ケインズとその経済学—中公新書版『実務家ケインズ』に即して—	
	小平 裕	企業の組織と非効率性	
11	岡田 清	取引費用経済学の系譜	1998. 4
	神田 秀樹	セキュリティゼーションの現状と課題	
	篠原三代平	東アジア経済のダイナミズムを考える	
	高野 義樹	住宅金融システムと債権の流動化	
	小山 明宏	ドイツ証券市場の問題と展望	
	シンポジウム	日本経済の構造変化と金融システム改革 問題提起 (寺西重郎)	
		金融システムの国際比較と日本版 ビッグ・バン (黒田屍生)	
		証券市場からみた金融ビッグ・バン (米澤康博)	
		金融技術革新の潮流 —リテール金融との関連で— (村本 孜)	
		情報化と金融システム改革 (池尾和人) 討論	
12	石 弘光	二元的所得税論について —利子・譲渡益をいかに課税すべきか—	1999. 4
	井堀 利宏	財政構造改革のゆくえ	
	林 健久	地方財政と経済政策・景気政策	
	吹春 俊隆	Newton 法による一般均衡解の計算	
	花枝 英樹	資産証券化の経済分析	

号数	執筆者	タイトル	発行年月
12	吉川 卓也	財務データからみたわが国企業の資産調達の特徴 および企業規模別借入金金利の計測	
13	田中 素香	EU 通貨統合と国民経済 ——グローバル化への対応を中心に——	2000. 4
	内田 真人	欧州通貨統合と金融政策 ——統合後1年の課題と展望を中心に——	
	田中 俊郎	EU 統合の現状と展望 ——拡大と深化の視点から——	
	西沢 保	救貧法から福祉国家へ ——世紀転換期の貧困・失業問題と経済学者・官僚——	
	秋元 英一	アーヴィング・フィッシャーとニューディール	
	明石 茂生	ケインズ『一般理論』再読—失いし世界	
14	小川 英治	通貨バスケット制導入の効果と障害	2001. 4
	原田 泰	統合は平和と繁栄をもたらすか ——経済統合とアジア——	
	根本 忠宣	欧州における金融システムの多様性と統合の影響	
	原 洋之介	世界史のなかのアジア経済 ——グローバリズムと地域性の経済学——	
	斎藤 純一	社会国家と統治の変容	
15	後藤 晃	日本のナショナル・イノベーション・システムと その改革	2002. 4
	島野 卓爾	欧州中央銀行 (ECB) のインフレーション・ターゲティング	
	長谷川公敏	日本経済はなぜ回復しないのか	
	宮川 公男	挑戦を受ける21世紀の資本主義文明	
	高月 昭年	日米銀行法制の違いと法律の沈黙	
16	首藤 恵	金融危機後のアジア資本市場の再構築	2003. 4
	堀内 昭義	第二次大戦後の金融システムの機能を評価する ——銀行経営ガバナンスの視点——	
	楠本くに代	「金融商品の販売等に関する法律」(「金融商品販売法」) 施行後の金融消費者保護の実態と取り組むべき緊急 の課題——英国「2000金融サービス・市場法」と法施 行後の FSA の取り組みを参考に——	
	田尻 嗣夫	郵便預金・簡易生命保険の資金運用と欧米運用機関の教訓	
	村本 孜	グローバル化と効率・公平 ——展望と金融排除——	

号数	執筆者	タイトル	発行年月
17	藤田 誠一	グローバリゼーションとユーロ登場の意味	2004. 4
	浅沼 信爾	アジアの経済発展とグローバリゼーション	
	斎藤 聖美	ベンチャーで日本を活性化する	
	平尾 光司	アメリカにおけるベンチャーキャピタルの発展過程	
	江夏 由樹	中国東北地域の土地をめぐる中国と日本	
18	小野 有人	アジア域内における「最後の貸し手」の意義と課題 ——国際金融機関による政策競争の観点から——	2005. 4
	石山 嘉英	国際資本移動の増大と為替レート制度の選択	
	駒村 康平	21世紀型の社会保障制度を求めて ——2025年を視野に入れた改革——	
	石 弘光 佐藤 宏	少子・高齢社会における税・社会保障制度負担のあり方 現代中国における国家と農民 ——税制改革と所得分配——	
19	日向野幹也	小口金融における実店舗と「動線」の役割 ——日米英独の経験——	2006. 4
	岩田 健治	EU（欧州連合）の新しい金融サービス政策	
	矢野 誠	M&A 市場とその質	
	高橋 伸子	金融経済教育の現状と課題 ——金融消費者、個人投資家は育つか——	
	瀧澤 弘和 相原 章	比較制度分析：枠組みと最近の展開 コンピテンシーに基づく HRM の動向	
20	和田 一夫	年産200万台を超える T 型車をフォード社はどのよ うに達成したか？ ——フォード社の生産システム再検討——	2007. 4
	栗原 裕	量的緩和策の評価と課題	
	十川 廣國	企業と市場・社会—CSR の意義を考える—	
	池本 正純	企業家論の視点とコーポレートガバナンス	
	堀内 圭子	浮世絵を生かしたまちづくり ——小布施町の北斎と墨田区の北斎——	
21	経済研究所創立20周年記念		2008. 4
	伊丹 敬之	世界の中の日本、歴史の中の日本	
	岡田 清	わが国における金融経済学の発展 ——高垣寅次郎先生の事績——	
	Ichiro Uesugi Koji Sakai and Guy M. Yamashiro	Effectiveness of Credit Guarantees in the Japanese Loan Market	

号数	執筆者	タイトル	発行年月
21	大森 弘喜 シンポジウム	「都市空間論」の射程 イノベーション・システムの進化とそのガバナンス 趣旨説明 (伊地知寛博) 知的財産権制度の展開とイノベーション (小田切宏之) イノベーションの質的变化と新たな ガバナンスシステムの模索 (元橋 一之) アジアにおけるグローバル・イノベーション・ ガバナンスの構築にむけて (角南 篤) 討論	
22	寺西 重郎 鹿野 嘉昭 吉田 悦章 内田 真人 南里光一郎 平田 英明	明治大正の投資家社会 2003年以降における中小企業の経営財務面での 動きをめぐって —CRD の分析結果から— イスラム金融—国際金融界の新潮流 グローバルにおける住宅金融の急展開と混乱 スコアリング貸出の課題—新銀行東京を例に	2009. 4
23	原田 泰 井手 英策 水野 和夫 鎮目 雅人 文献解説 中川 和彦	日本国の原則—自由, 民主主義, 経済発展, 戦争, 平和について考える マクロ・バジェットインゲと増税なき財政再建 —高橋財政の歴史的教訓— 21世紀は陸と海のたたかい —アメリカ金融帝国の終焉と資本主義の誕生— 世界恐慌と経済政策 —『開放小国』日本の経験と現代— カルロス, F. R. およびセレスティーノ, R. E 共編 メキシコにおける中小企業: 現状および戦略的挑戦	2010. 4
24	鶴 光太郎 内田 聡 山上 秀文 渡邊 頼純 福井 俊彦	労働市場制度・雇用システム改革 —労働市場二極化問題を中心に— アメリカの金融システム —ウォールストリートとメインストリート— 経済開発に果たす国際プロジェクトファイナンスの役割 忍び寄る「新保護主義」と国際通商体制 —WTO, FTA/EPA, そして TPP の役割— 60周年記念特別講演 「厳しい生存競争に立ち向かう」	2011. 4

号数	執筆者	タイトル	発行年月
25	岩田規久男	なぜ、日本銀行の金融政策では デフレから脱却できないのか	2012. 4
	齊藤 美彦	国債累積と金融システム・中央銀行	
	権上 康男	欧州通貨統合史の神話と実相 —スネイクから EMS へ—	
	倉都 康行	準備 (基軸) 通貨の来し方・行く末	
	小平 裕	ネット公売の収入最大化	

「研究報告」(グリーン・ペーパー) 刊行一覧

1	花枝 英樹	自己株式取得と企業財務	1994. 1
2	明石 茂生	世界貿易の進展と構造変化：1861-1991	1994. 1
3	村本 孜	協同組織金融機関の健全経営の一考察 —労働金庫の自己資本の充実—	1994. 6
4	村本 孜	生命保険会社の競争力について —銀行業務兼営を考慮した規模・範囲の経済性—	1994. 6
5	吉川 卓也 小平 裕	生命保険需要の特性分析 —簡易保険と民間生命保険—	1995. 3
6	明石 茂生	国際収支と構造変化：1881-1991	1995. 3
7	花枝 英樹	なぜ企業は財務リスク管理を行うのか	1995. 3
8	村本 孜	協同組織金融機関の合併の一考察 —労働金庫の規模の経済性の計測—	1996. 3
9	山口 一臣	アメリカ食品企業の環境戦略 —マクドナルド社, スターキスト社 (ハインツ子会社) の事例を中心として—	1996. 6
10	小平 裕	金融機関の X 非効率性の計測	1997. 2
11	浅井 良夫	経済安定本部調査課と大来佐武郎	1997. 3
12	海保 英孝	フィージビリティ・スタディの諸問題	1997. 3
13	手塚 公登	企業の資本構成と取引コストの理論	1997. 3
14	山田 稔	建設業労働者の賃金・賞与・退職金・年金 —労務管理論的考察—	1997. 11
15	池田 和宏	J. S. ミル国防論に関する一考察 —1860年におけるアイルランド植民地との関連で—	1998. 1
16	立川 潔	J. S. ミルのリベラリズム批判 —社会再生における権威の必要性の認識—	1998. 3
17	海保 英孝	業績の悪化と回復の作用機序について —その論点とインプリケーション—	1998. 3
18	村本 孜	家計貯蓄率の将来推計	1998. 3
19	岩崎 尚人	企業間ネットワーク構築による戦略的革新の実現	1998. 3

号数	執筆者	タイトル	発行年月
19	神田 良	—中小トラック企業のケースから—	
20	吉川 卓也	日本の個人金融資産需要の特性	1998. 3
21	福光 寛	資産担保証券の財務的意義について	1999. 3
22	角田 俊男	ヒュームの情念論と判断力 —『人間本性論』をとおして—	1999. 3
23	花枝 英樹 吉川 卓也	資本構成問題の再検討	1999. 6
24	村本 孜	金融システムの国際比較分析 —市場統合・通貨統合のもたらすもの—	2000. 3
25	浅井 良夫	「新長期経済計画」と高度成長初期の経済・産業政策	2000. 3
26	篠原 光伸	デリバティブとヘッジの会計 —国際会計基準設定までの推移と今後—	2000. 3
27	塚原 英敦	Empirical Copulas and Some Applications	2000. 12
28	山重 芳子	An'Austrian'Model of Environment and Trade	2001. 1
29	手塚 公登	企業特殊的人的投資とアウトプットの最大化	2001. 3
30	井上 正 立川 潔	若き S. T. コウルリッジの急進主義思想（上） —1795年プリストル道徳政治講演の啓示宗教的基礎—	2001. 3
31	福光 寛	公社債投資信託の元本割れをめぐって	2002. 3
32	角田 俊男	周縁にとっての主権と商業 —ブリテン, ヨーロッパの 公共空間を開くヒューム哲学—	2002. 3
33	福島 章雄	経済・市場統合の展開 —NAFTA の成立とメキシコの通貨危機—	2002. 3
34	小平 裕	Mathematica によるミクロ経済学	2002. 3
35	Gordon de Brouwer	The IMF and East Asia : A Changing Regional Financial Architecture	2003. 3
36	手塚 公登 浅野 義	年金民営化と「スイッチング」問題	2003. 3
37	福島 章雄 峯岸 信哉 村本 孜	経済統合の類型と金融システム・金融政策	2003. 3
38	明石 茂生	「前近代」世界システム：形成と変容	2004. 3
39	山村 延郎 松田 岳	米独の預金保護制度の比較分析 —破綻処理と規律付けを中心に—	2004. 3
40	村本 孜	アメリカの地域金融促進政策—CRA の問題—	2004. 3
41	小平 裕 佐々木覚亮	わが国の社会会計行列の作成	2004. 5
42	浅井 良夫	IMF 8 条国移行と貿易・為替自由化（上） —IMF と日本：1952～64年—	2005. 3

号数	執筆者	タイトル	発行年月
43	大森 弘喜	近代フランスにおける労使関係とディリジズム	2006. 3
44	上田 晋一	二酸化炭素排出枠の公正価値会計： IFRIC 第3号の検討	2006. 3
45	岩崎 尚人 海保 英孝 相原 章 福田 和久 都留 信行	中堅・中小企業の ステイクホルダー・マネジメントの研究	2006. 5
46	浅井 良夫	IMF 8 条国移行と貿易・為替自由化（下） ——IMF と日本1952～64年——	2007. 3
47	福光 寛	証券化の功罪：サブプライム問題を振り返る	2007.10
48	沼尻 晃伸	戦間期・戦時期日本における方面委員論に関する 一考察一都市社会事業と「公」・「公共」一	2008. 3
49	西久保浩二	福利厚生制度の現状と課題	2008. 3
50	小藤 康夫	大学経営の構造と機能	2009. 2
51	小平 裕	経営者報酬と企業の行動目的	2009. 3
52	大岡 聡	昭和戦前・戦時期の百貨店と消費社会	2009. 4
53	数阪 孝志	地銀決算にみる地域金融の問題点	2010. 4
54	Carlos Fong Reynoso Taku Okabe Akio Fukushima and Tomohiro Kakihara	Some Issues of the Medium-and Small-Sized Enterprises in Mexico	2010. 6
55	角田 俊男	都市共和国の伝統を継受する専制帝国 一啓蒙の歴史叙述とピョートルの改革一	2010.12
56	大隈 宏	EU とミレニアム開発目標 一グローバル・パートナーシップの模索一	2012. 2
57	明石 茂生 柿原 智弘	日系企業のメキシコ進出： ハリスコ州の事例を中心に	2012. 3
58	岩崎 尚人 相原 章 橋本 菜子	人的資源管理システムの構築に関する研究 一ダイバーシティ・マネジメントへのアプローチ一	2012. 3
59	中田真佐男	消費者による小額決済手段選択の現状： アンケート調査を用いた分析	2012. 9
60	駒形 哲哉	中国の社会主義市場経済と中小企業金融	2012. 9
61	青山 和正	ベトナムの中小企業政策に関する研究 一ベトナムの中小企業振興施策の現状と課題一	2013. 1
62	角田 俊男	越えがたい懸隔と永久の分離 一バークと東インド会社の帝国統治1778—95年一	2013. 2
63	Jesus Arroyo Alejandro	Regional development in Mexico	2013. 3

号数	執筆者	タイトル	発行年月
63	David Rodríguez Álvarez Salvador Carrillo Regalado Taku Okabe and Tomohiro Kakihara	–socio-economic regional development and foreign direct investment–	

「モノグラフ」刊行一覧

1	村本 孜	制度改革とリテール金融 (平成6年 中小企業研究奨励賞を受賞) (平成9年 生活経済学会賞を受賞)	1994. 3
2	白鳥庄之助 村本 孜 花枝 英樹 明石 茂生 (共著)	金融デリバティブの研究 ——スワップを中心に——	1996. 3
3	村本 孜 (編著)	グローバリゼーションと地域経済統合	2004. 3

* バックナンバーをご希望の方は、当研究所までご連絡下さい。

問い合わせ先：成城大学経済研究所

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20

TEL：03-3482-9185, 9187

FAX：03-3482-7851

e-mail：keiken@seiyo.ac.jp

成城大学 経済研究所年報 第26号

平成25年 4月10日 印 刷

平成25年 4月20日 発 行

非売品

発 行 明 石 茂 生
責 任 者

発 行 成城大学経済研究所

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20

電 話 03 (3482) 9187 番

印刷所 白陽舎印刷工業株式会社
